



NEWS RELEASE

植物工場事業の海外展開を加速
アジア3か国の4企業とMOUを締結

2026年2月
MIRAI株式会社

MIRAI株式会社(本社:千葉県柏市 以下「MIRAI」)は、2025年12月~2026年2月までにアジア3か国(モンゴル、タジキスタン、フィリピン)の4企業と、各地の人工光型植物工場の栽培設備導入および運営と栽培支援を目的としたMOUを締結いたしました。

過去、海外案件としては5か国(7企業9拠点)に提供してきましたが、2026年はさらに加速をしていく1年として活動してまいります。



*写真(左):ZIRA社 タジキスタン日本ビジネスフォーラム MOU締結時 (右)MIRAI来社時

4件いずれも個別理由はあるものの、以下に共通点を挙げます。

- ・アジア各国の経済発展に伴う、豊かな食生活を実現する各種ビジネスへの原料供給手段の1つ
- ・各国・地域における気候環境を含む野菜調達事情の課題、食料安全保障の観点
- ・「商業化された自社植物工場での運営・販売実績」と「海外への設備輸出、ノウハウの提供実績」

«MOU概要ならびに現在進捗状況»

タジキスタン [ZIRA社](#)(ドゥシャンベ市)については、2024年春に引き合い。ZIRA社(FIFTY FIVE GROUP)からタジキスタン国内初の商業モデル型の人工光型植物工場設置に向けた取り組みの要望があり、2025年12月19日(金)に帝国ホテルにて開かれたタジキスタン日本ビジネスフォーラムの中でMOUのサインを締結。

上記ビジネスフォーラムは12月20日東京で行われた「中央アジア+日本」対話・首脳会合に合わせて開催されました。



(参考)12月19日の様子をInstagramでご覧いただけます→

MOU締結後、現在はFS(フィージビリティスタディ)に関するコンサルティング契約を締結し、候補地のレイアウト案、生産計画、動線、衛生区画、インフラ(電力、水、CO2)情報、事業計画策定の支援、栽培設備設置に向けた水質確認、各種現地の電気、給排水の状態確認、野菜の販路構築のための情報交換を実施中です。

モンゴル(ウランバートル市)では2件進行中になります。2023年から続くコンサルティング先のSHG社から工場移設に伴い、生産計画やレイアウト、衛生区画の助言、空調能力や除湿能力を含めたインフラ情報のシミュレーション、生産歩留まりを加味した事業計画の策定支援を実施。もう1件は同国(ウランバートル市)の外食業態のスタートアップ企業になります。小規模の植物工場設備を設置するための各種シミュレーション依頼を受け、現地情報を基にコンサルティングを実施中。

フィリピン(マニラ市)の企業とは、国内初の商業型大規模植物工場設置を目指しています。現在はMOUを経て、基本計画のコンサルティング支援を実施中。

葉物(主にロメインレタス、フリルレタス、ルッコラ、バジル、ベビーリーフなど)を生産予定としています。2026年、2027年に栽培設備導入し、工場稼働、野菜の出荷までを計画し進めているところになります。

< MIRAI に期待されている役割 >

植物工場の設計段階から建設フェーズ、試験栽培～量産栽培、販売、保守メンテナンスを一連で理解する会社としてプロジェクトマネジメント的要素を期待されていると認識しています。

1. 【実績】人工光型植物工場の自社工場としての運営実績
2. 【支援】立上げ期における生産計画/人材教育/栽培トラブルシューティングの補助
3. 【情報】これまでの植物工場運営における成功、失敗の事例共有

植物工場はフードテックとして注目を浴びる中、日本はもちろん、世界中で需要が高まっています。一方で、植物のこと、製造業のこと、人材教育のこと、流通のこと、植物工場という箱の中ではたくさんの掛け算を行い、ノウハウを蓄積していくことが必要です。当社はこれまで、これからも、柏の葉工場を人材開発拠点として、複数の掛け算を身につける人材を多く輩出する企業として成長してまいります。



<会社概要>

MIRAI 株式会社

代表取締役会長 椎名吉夫

代表取締役社長 野澤永光

創業:2004年9月

設立:2015年11月

住所 千葉県柏市青田新田飛地 221-1

<本リリースに関する問い合わせ先>

管理部 <http://miraigroup.jp/#contact>



MIRAI 株式会社 経営理念

安心、信頼、感動

私たちは、確かな技術と品質を基盤に、世界中のお客様とお取引先様に「安心」と「信頼される価値」を提供します。そして、商品開発、技術開発、知見、経験を重ねることで、心を動かす「感動」を創出し、社会の発展と繁栄に貢献します。